無断転載禁止

土木技術者女性の会

輪

2006年 臨時号

土木技術者女性の会

＜会の目的＞

1．土木界で働く女性技術者同士のはげましあい。
2．土木界で働く女性技術者同士の知識の向上。
3．女性にとって魅力ある、働きやすい土木界の環境作り。
4．女性土木技術者の社会的評価の向上。
5．土木技術者をめざす女性へのアドバイス。

＜倫理規程＞

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規程を遵守するものとする。

1．会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする。
2．会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する。
3．会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない。

目　　次

巻頭言

変わったこと,変わらないこと,そしてこれから...（事務局長　須田久美子）　.　..... 1

特集　私の家事の工夫　～自慢したい家事の工夫、家事分担の工夫 (苦労？) ～

家事の工夫　（北海道地区　秋元ゆき子）　..... 2
負ける負ける負けまくる（関東地区　山田留津子）　..... 3
我が家が一番（中部地区　中西利美）　..... 4
頼めるものは頼む！（関西地区　上林恭子）　..... 5
「できない～！」と言うこと（北海道地区　河合菊子）　..... 6
我が家の風景（関東地区　坂本祥子）　..... 7
私の家事の工夫（苦労）（中部地区　小畑敏子）　..... 8
「私の家事の工夫」について聞いてみました（関東地区　田村裕美）　..... 9

新入会員紹介　..... 11

巻頭言

変わったこと，変わらないこと，そしてこれから...

事務局長　須田久美子

最近，会の活動を通じて，女性の土木技術者を取り巻く環境が大きく変わったことを実感するできごとが二つありました。

一つ目は労働基準法の改正です。2006 年 6 月 15 日（木）に労働基準法第六十四条の改正を含む「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律及び労働基準法の一部を改正する法律案」が第百六十四回通常国会において全会一致で可決され，成立しました。今回の労働基準法の改正において注目すべき点は，「女性の坑内労働」について妊産婦を除き全面的に禁止規定が撤廃されたことです。これによって，「女性」として労働基準法内に項目立てて示されてきた禁止規定が全てなくなり，項目の名称が「女性」から「妊産婦等」と改められたことも感慨深いことです。法律の面からも土木分野における男女共同参画の準備が整ったと言えます。労働基準法改正の動機付けには，労働者・使用者双方の要望が必要であったわけですが，法律改正を強く要望し，法律改正の恩恵を受ける労働者が確実に存在することが示される必要がありました。これについては，土木技術者女性の会の果たした役割は非常に大きく，20 年以上に亘って着実に会員数を増やしながらしっかりと地道な活動を行ってきた実績を背景に，当会が女性の坑内労働禁止の規制緩和を要望することで，法律改正を促す引き金になりました。

二つ目は，2006 年 3 月末に発行された「Civil Engineer への扉 2006 年版」への反応です。一般紙に紹介記事が掲載されるやいなや，100 件を超える注文が殺到しました。メールの普及も反応を敏感にした一因と考えられますが，購入理由が千差万別で，土木の勉強をしている女子大生が就職活動の参考にしたいというものや，女子高校生が進路選択に役立てたいというもの，土木に進学した娘や孫を心配したもの，女性技術者を受け入れる企業の人事担当者が人材育成の資料にしたいというもの，現場見学会に参加する中・高生に配布したいというもの，大学の先生が女子学生から受ける様々な質問に対して回答するための参考書にしたいとするもの，など注文の動機が非常に明確です。これは土木系の大学の先生や土木関係者からジワジワっと注文があった 1999 年版とは明らかに異なります。土木技術者を目指す女性が確実に増えていて，また，企業側にもこれを受け入れていこうという前向きな姿勢があること，さらにこのような動きを温かく見守ろうとする気持ちが伝わってきます。

一方で，相変わらず，女性の技術者が職場に 1 人だけです，就職活動を始めましたが先生に相談に乗ってもらえません，と不安を抱えている女性がまだまだ多いこともわかりました。法制度の動向や建設業の職場での具体的な運用状況など女性土木技術者を取り巻く労働環境に関する情報や，「Civil Engineer への扉」のような様々な女性土木技術者のロールモデルに関する情報など，必要としている人に必要な情報を伝えるにはどうしたらよいのか？　，真剣に考える時期がきているように感じます。

まずは，「Civil Engineer への扉 2006 年版」を一人でも多くの必要としている人の手元に届けるところから始めたいと思います。いつか，“ 土木技術者 ” というだけで仕事のイメージを誰もが思い浮かべることができて，男も女も気にかけることなく職業選択ができるような時代に向けて，自分にできる確かな一歩を踏み出したいと考えます。

特集　私の家事の工夫

～自慢したい家事の工夫、家事分担の工夫（苦労？）～

働きながらもついて回ってくるのは日常の家事です。独身でも、結婚していても、充電中の専業主婦でもそれは変わりません。掃除、洗濯、食事の支度など、いかに毎日の家事をこなしているのか？家庭内での分担は？皆さんの工夫を聞きました。そうか！っと膝を打つ工夫もあるかもしれません。是非参考にしてください。

家事の工夫

北海道地区　秋元ゆき子

家事・・・・私にとって家事という言葉は旦那さんがいる人が使う言葉だと思っていた。

だから、「家事で忙しい」という話を聞くとちょっぴりうらやましい気持ちになったものだ。

残念ながら、旦那さんはできなかったが、子どもができたため、育児と共に、洗濯やら食事の支度、片付けといった作業が増えた。それでも、やっぱり、家事というほどのことはしていないと思う気もするが、家事について何点か書いてみようと思う。

まずは食事の支度について。私の娘は保育園に通っているため、昼と夜は食べてから帰ってくる。私が食事らしい食事の支度をするのは、朝と日曜日だけだ。まず日曜日の食事は土曜の夜から仕込み始め、煮物やカレーライス、ハンバーグなど、娘の喜びそうなものをたくさん作る。当然余るので、それを保存して、月曜日から水曜日くらいの朝ご飯にだす。木曜くらいから土曜日の朝は主に、魚やゴボウ天など魚焼き機で焼けるものを食べることにしている。魚焼き器はタイマーで動くので、並べて、時間を設定しておけば勝手にできるので楽だ。みそ汁は毎日作るが、朝起きて、鍋に水と昆布をいれ火にかけて、シャワーに入っている間に、沸騰して、鰹ぶしをいれ、箸でちょちょっと取り除き、豆腐をいれて、あればネギをいれて最後に味噌をいれるだけ。思い返してみると私が食事作りに費やしている時間は、週に３時間くらいだ。後かたづけはちょっとやっかいだが、食器洗い機にいれて片づけるだけだし、洗いたくないので、食器洗い機に入らないサイズのものは最初から使わない。食器洗い機から出てきたものは、拭かずに食器棚にいれる。熱湯で洗うため、水きれがよいし、蓋をあけておけば乾くので問題なし。

掃除は、課題が山積みである。私は、ちらかっていても平気なので、なかなか危機感がわいてこない。私が今日は片づいていると思っていてもそこに友達が来ると、「ちらかっているね・・・」という話になる。そこにきて娘は、保育園でしつけられてきているので、使ったものは所定の場所に戻すし、散らかったり、埃にはうるさいので、今は娘が住める程度に掃除をしている。「ものの置き場所を全部決めること」が最近の課題であるが、置き場所を決めるスピードより、物が増えるスピードが格段に速いためうまくいっていない。

最後に洗濯は、「干す」と「たたんで片づける」があるが、どちらも、子どもと遊ぶ時間にすることにしている。遊びの一つとして、干す物を一枚ずつ子どもに取ってもらい、つるしていく。たたむのも子どものたためる物は子どもにたたませる。たたむ早さを競うと喜ぶ。

う～ん！！書けば書くほど、家事らしい家事をやってないなあぁと思うのだが、

あえて、私のとっておきの家事の方法というならば「なるべくやらないで済ませる。」ということだ。

負ける負ける負けまくる

関東地区　山田留津子

原稿依頼が来てまず何を思ったかって、「工夫してるとかコツがあるとかそんなんであればこうも長い間専業主婦にとどまってはいないだろう？」でした。自覚しています。突っ込まないように。

そう言えば、と、もう３年前になるかしら長男の小学校の総合学習で「専業主婦の生活について話してくれる人募集」にほいほい手を挙げた時の事を思い出し。確かあの時は「毎日毎日さぁメシだ、ってーと１つは普通に１つは冷まして１つは更にそれを細かく刻んで、しかも同時に並べるんだよ、大変なんだよ！君らも多少の事はてめえでしろよ！」とか「分母は１のままで分子が２、３、４、５と増えてしかもどれもよく食べるから、独身時代よりお金がないのは必然なのだ！そこで " お金掛けるな、手間掛けろ "。さぁ皆で言ってみよう♪」とか「社会的地位はとても大切なのだが、悪いがこれについてはタダでは喋れない！」とかそのようなレベルで小３をケムに巻いて結構ウケたんだったわ。

まぁ実際あの頃は結構大変だったかも・・・えーと、８才、３才、０才だったか。それに比べりゃ今は大分ラク・・・な筈なんだけど、あんまり明確な差異を感じないのは、人間ってなぁそういうものなのだろうなぁ（何？）。

まぁそれでお題の工夫だ。「手抜き」。身も蓋もないわね。私の場合は“毎日の料理”と“毎日の洗濯”は決して譲れない線なので、必然的に“死にはしないわよお掃除”と“いつかきっと夜明けは来るのよお片付け”になるかなー。ま、客も来ないし。いや、散らかってるから呼べないという説もあり。鶏が先か卵が先か。考えない考えない。大切なのは毎日をまがりなりにも回して行く事よ。当たり前か。

ふと。工夫それは即ち「負ける」事。と思い当たる。思い起こせば若い頃（遠い目）、一生懸命粉石鹸使ってたのよねぇ。いや、頑張ったのよ！頑張ったんだけど、ふと手を出してしまった「漂白剤ｉｎ」とかそういうののまぁニオイまでよく落ちる事ったらさ。以来すっかり負けまくりである。ケミカルってビバだなぁ。いや、それはそれでそうなんだけど！

あと負けたものと言えば食器洗い機。これも、「そんなものの導入は私のプライドに賭けて！」とか言ってたけど、負けてみたらやはりビバでした。購入検討中の方、何しろビバですよ～。副産物として家庭も平和に（謎）。

他に、今は負けてないけどいつかきっと近い内に負けるであろうという確信があるのは、レンジでチンする冷凍食品かなぁ。厳密に言えばレンジであろうとなかろうと冷凍食品そのものが負けなんだけどねぇ。餃子とか。コロッケとか。ホットケーキなんか買い出したらもう完全に負けかも。

多少周囲にリサーチを掛けてみたら、ケミカル洗剤に負けた冷凍食品に負けたに混じって、部屋干しに負けた、という層がいました。干して干して一日干して、もうそこからそのまま取ってって頂戴、って事かな。あんまり突っ込めなかったけど。

ちなみに我が家は、干しに関しては除湿機に負けてます。除湿機と扇風機のダブル使い。あな恐ろしや。購入検討中の方、除湿機もビバですよ～。どうせ買うならハイパワーのヤツをね～。あぁあぁ、負けている・・・。

家事じゃないけど、美容院でヘアカラー、ってのも負けてみたいようなものの一つかも。それと携帯電話（まだ負けてません！）。

我が家が一番

中部地区　中西利美

「家事とは？」をインターネットで検索してみました。その中に“家事労働についてお伺いします”と①炊事、②掃除、③洗濯の３点について尋ねていました。私も我が家の家事をこの３点にしぼって振り返ってみたいと思います。

私は、家事を真剣に捉えたことがありません。優れた母親（専業主婦）を持ち、幼い頃から家の中を一日中動き回り働いていた母の姿が目に焼き付いてます。私も将来主婦になったら職業に就くつもりだし、両立できるかな？と心配でした。そんな娘に母親は、“全部完璧にしようと思わないこと。体を壊しては元も子もないから。まず、皆が健康で頑張れるよう食事だけは作りなさい。洗濯は、今は洗濯機があるから任せなさい。アイロンは、忙しい時期はクリーニングに出しなさい。掃除は、生活空間が清潔であれば隅にごみが溜まっていても普段はやり過ごす。時間ができたときにしっかりやりなさい。兎に角主婦が健康でなきゃダメ。ダメ主婦でもいいから明るく清潔に心がけること。少々家が汚くても家が一番と言ってもらえるように。”と。生前、娘が手抜きをできるようにと、食材や便利グッズ等を送ってくれたのが懐かしく思い出されます。

そこで、主婦になった私は、家族がいる時に掃除機をかけるのが嫌なので日曜日の午前中、夫に子供を外に連れ出してもらい一人になる。これが快感で、パジャマのままで心置きなく一週間の洗濯（大物）、掃除と奔走する。家族が出掛けた時の状態と、遊んで帰ってきた時の家の掃き清められた爽快感とのギャップに、夫は、「きれいになった！！」と、息子は、どろどろの体で「きれいだ！気持ちいい！」と言って転がりまわる。これが家族の笑顔の基であり、私の家事へのご褒美であり、また次回も頑張るぞ！！と、やる気に繋がります。一方、炊事ですが、チャレンジの好きな私は、仕事で美味しいものをご馳走になった時の味を家で工夫して作ってみたり、残業で帰りが遅かったり子供がお腹をすかせている時に手早く作る必要があるので、手早く調理するための無水鍋、電子レンジ、容器など新しい物に手を出し使ってみます。しかし、８割の器具は最初だけで、“その内何処かへ”の物が多いです。結局のところ、無水鍋と普通の調理器具で自然の食材と香辛料とで調理したものが家族に好評で、「またあれと同じものを作って」と言われます。ここで、私の料理はお姑さんにも好評なのですが、料理の名前が付かない。プロは何回作っても同じものを作ることができるのですが、私には食材も味もその時々で同じ物ができません。家族にとっては、名前の付かない同じ物が二度とできないことが面白くまた楽しみと。このことが私の料理へのチャレンジをやめさせない要因の一つなのでしょうね。

現在、息子は一人暮らしを始め自炊生活をしております。母親のすることを見ていたらしく、掃除・洗濯そして毎日の朝・夜食を作り食べているようです。まだ栄養のバランスまでは無理なようですが（よく風邪を引きます）。また私も息子に便利グッズや、食材をこまめに送っています。それを見て夫やお姑さんは、「母親に似てきたね」と。

最後に、私の家事は、自分だけの生活でも必要であり、ついでに家族の分を行っていると思うことにしています。家族が「手伝おうか」と言った時は、喜んで手伝ってもらいます。この時に「いいよ。私がやるから」と言ってしまうと、知らないうちに「何も手伝ってくれない‥」と愚痴を言う羽目になりますよ。また、役割や当番を決めていると、義務を果たすために家事をするという気分になり面白くなく長続きしません。したがって我が家は、家事の役割分担はしておりません。これからも、ダメ主婦で家族が「我が家が一番」と言って帰ってきたくなるような家事を気長にしていくつもりです。

頼めるものは頼む！

関西地区　上林恭子

今回、原稿依頼のお話を聞いたときには、気軽に返事をしてしまいました。しかし、“最近家事していないなー！”と思い、いざ書こうとした時には“どうしよ～～”という心情でした。“うーん”と思い悩んだ末、私の家事の工夫と言えば、「頼めるものは頼む！」「気にしない！」と言うことに尽きるという結論にいたりました。

私の事をご存知ない方は「何を言っているのか？？」と思うことでしょう。そこで、まずは自己紹介をします。我が家は共働き夫婦と三人の子どもの五人家族です。子どもは、小学校３年生の長男、年長の次男、1歳の長女です。私は公務員、夫は会社員です。一見、“子どもが少し多い普通の家族構成じゃない～”と思われるでしょう。しかし、土日は五人家族ですが、平日は七人家族なのです。と言うのは、長女の育休復帰後は、平日は、夫の両親と同居をしているのです。どの様な生活のパターンかと言うと、夫の両親は月曜日の午前中に我が家に到着、金曜日の夜自宅に帰っていくということなのです。子どもの病気以外の時には、長男、次男の時も週に１日お願いをするという程度でした。しかし、三人目が産まれ、長男が小学生になり、最近の子どもを取り巻く状況から、やはり鍵っ子にさせるのは不安になり、夫の両親のお世話になることにしたという訳です。

一日のスケジュールとしては、朝食は子ども達と私たち夫婦は自分で用意して食べます。夫が先に仕事に出発し、私は小学生の長男と一緒に家を出ます。次男と長女を保育園へ送ってもらうことから、夫の両親にお願いしています。昼間から夜私たちの帰宅までは、家事では、お義母さんに洗濯と夕食の用意、お義父さんは主に長男の習い事の付き添い、保育園の送迎など子どもの事をお願いしている状況です。

何と言っても頼める人が身近にいるというのは、とても幸せなことであるというのは十二分に分かってはいるのですが、やはり何かにつけてやり方が異なり、いろいろ思うこともあります。子どもの洗濯物のしまう場所が違っていたり、お気に入りの食器が割れていたり・・・・・。一番の問題は、家事、子ども達の事の大部分をお願いしているので、どっちが親か分からない状況に陥ることです。夫の両親は熱心に世話をしてくれます。熱心ということは思い入れも強くなるのか、その反動として、私たち夫婦に対する不満が募ってくるようです。そのような時でもめげずに「頼めるものは頼む！」「気にしない！」の精神で日々を乗り切るのです。もちろん、感謝することも忘れてはいけません。職場で、このような話をすると、大変そうと思われる方も多いようですが、要は慣れの問題かなーと思います。

話を変えて、本来の家事の工夫としては、“ピクルスなどの常備菜を作る。”“献立を事前に考えておく。”“お味噌汁がメインの一品になるように具沢山にする。”など心がけています。しかし、最近は残念ながらできていません。

家事の工夫というよりは、“都合の良い言い訳”を紹介しただけになっているかもしれません。私と同じく共働きの方の場合は、どうしても仕事を優先してしまうと、家事にしわ寄せがいくと思います。そんな時でも「気にしない！」と言う気持ちを持って過ごすと楽になると思います。また、子どもがいる私としては、何よりも嫌なことは、子ども達への悪影響が出るということです。自分に余裕が無いと、子どもにも影響が出てくるということはつくづく感じます。そうならないよう、これからも過ごしていきたいと思っています。ということで、脈絡のない話になってしまいましたが、最後に、本来の家事の工夫は、他の方のお話を大いに参考にしてくださいねーというコメントで終わらせていただきます。ありがとうございました。

「できない～！」と言うこと

北海道地区　河合菊子

横浜に住んでいる夫が金曜日の夜に札幌に戻り最初にすることは、私がその週の間に溜め込んだ洗濯物の処理。

6年続いた在宅勤務時代の、三食自炊、毎日の掃除、洗濯、布団干し（これがしたくて在宅勤務にしたという経緯あり）の、几帳面でがんばっていた私とは大違い。ここまでたどり着くのに3年かかりました…。

当時の私を振り返ると「完璧な house keeper & それなりに稼ぐ人」を目指していたんだろうと思う。そして、「そりゃ無理だ」と認めさせられた後の現在の私の「家事のコツ」は3つの「家事の大原則」（？）。

原則1：「ねばならないこと」だけやる

本当に今、やらなければならないことだけをやる。「楽しいからやりたいんだ！」と理屈をつけられることも、あえてやらない。生真面目な（？）私の場合、「やりたいんだ」という理屈をつけて、ほんとはやりたくないこともやってしまう。あえて、「ねばならないこと」のみ片付ける。

この原則により排除されるのが、冒頭の洗濯物。

原則2：自分のコンディションを一番に考える

何がなんでも、自分のコンディションを保つことを最優先に考えて、「ねばならないこと」を選別する。自分のコンディションを保つためには「ねばならない」ことでも、あえてやらないこともある。

私の場合、コンディションを保つためのもっとも重要なことは、睡眠時間（少なくとも横たわる時間）を確保すること。何時に寝てもほぼ同じ時間に目が醒めてしまうので、そこそこの時間に布団に入らなければ、体も心も持たなくなってしまう。

この原則により排除されるのは、夕食やお弁当箱の洗い物。夜なら膨大に見える作業も、朝であれば、あっという間に片付いてしまうので、流しが洗い物でいっぱいの夕べも多々あり。

原則3：「できない～！」と言う

「ねばならないこと」もできないような状況（これを「緊急な状況」と定義！）となったら、自分でなければできないことだけやる作戦に変更。自分でなければできないこと以外は、「できない～！」と叫んで、やってくれる誰かを探すか、放置する。

このケースに当てはまるのが、夫にまかせている洗濯物、炊事、掃除、衣更え、車のタイヤの交換。

洗濯：手洗いするつもりの物が洗濯機に突っ込まれていたりするけれど、割り切る、割り切る。

掃除：掃除機をかけるのは本当に気が向いたときだけ。子供なし、ペットなし、ダニのわかないさわやかな札幌でだからこそできるこの無謀さだけれど。「できない～！」と言えるようになるまでが長かった。

タイヤの交換：札幌では、夏と冬のタイヤが別。春、秋の二度、タイヤを交換。重いタイヤをトランクルームから出し入れし、交換してもらうよう予約するのは大変。今年は、このまま次の冬まで放置することを宣言。

端的に言うと「やるべきことに優先順位をつけ、人に振れるものは振る」うーん、これじゃ仕事と同じじゃないか？？

札幌に移って今年で丸5年。4年前にうつ病を発症したのがここまで思い切れたきっかけ。「ねばならないこと」ではなく「できること」をすべてできていたうちはよかったけれど、仕事が増えるにしたがってオーバーフロー。「できるけれどやらない」勇気をようやく持つにいたったところ。

というわけで、お送りくださったメールやら何かに対応できないときは、「できな～い」となっていると思ってね。なーんて、書きながら、昨日はダウンしてしまった私。続く出張の合間に梅干、梅酒を漬けたあたりが破綻の兆しだったと思うべきでした。反省。

仕事も家事もがんばるのはやめましょう！（これをコツと言えるのか？？）

我が家の風景

関東地区　坂本祥子

我が家には４歳と１歳の兄妹がいる。私は昨年一年間、出産・育児休暇で休んでおり、今年４月二人を保育園に入れ、職場復帰した。

夫は朝６時には家を出ないと仕事に間に合わないので、二人の子供を起こして保育園に連れて行くまでの作業は、すべて私ひとりでやらなければならない。毎日悪戦苦闘しているが、これが連日連敗である。

子供は起きない。電気を全部着けて布団をはいで、服を着替えさせ、やっと起きたと思ったらすぐにおもちゃを取った取られたのけんかをする。朝ご飯の席に着いたら、兄が、自分のスプーンを妹が取った、とか妹が自分のパンを取ろうとする、とかで泣く。妹は兄の絶叫にびびって母にひっつき、おっぱいをほしがる。おっぱいを飲ませてしまうと妹は心地よいのでその場所を動こうとしない。よって母はおっぱいをのませながら朝ご飯を食べる。出かけようとすると、兄が歩けなあぃいぃぃ、だっこしてぇえ、とか、この靴下は遠足に行くときの靴下で今日ははかないんだよ！とか文句をつけて動こうとしない。妹はもう玄関で自分の靴をはこうと座り込んでいる。やっと行けるかと思うと妹はウンコが出ていたりする。たくさんの荷物を抱えているのに勝手に兄が玄関を出て行ってしまう。兄を追いかけていって妹がドアに挟まれそうになったりする。母は急いでいるので妹をだっこして連れて行こうとすると妹はいやあぁ！と反り返ってむりやり降りようとする。外に出て、勝手に一人で行かないの！と兄を怒ると、ねむくなった、とふてくされる。

まあこうしたことが、いつも朝６時４０分から７時４０分くらいの一時間の間に行われる。悪いときは布団もたためないし子供らの顔も拭いてやらずに家を出て、保育園に着いてから、あ、お手紙忘れた、とかいうことに気がつく。そして電車に走り込んでぎりぎり会社の時間に間に合う。電車に事故が起きたりして遅れたときは遅刻せざるをえない。毎日落ち込み、もっと良い母になりたい、と思うのだ。

そんなバタバタな母親の私に対し、我が夫は夕方から寝るまでの間は、洗濯をたたんだり布団を敷いたり子供とお風呂に入ったり、といろいろ手伝ってくれる、大変良い夫である。一点悪いことといえば、夫は自分は家事ができると思っていることだろうか。実際、何でもてきぱきとやってくれるのだが、時々私におまえは何でできないんだ！と文句を付ける。掃除ができてない！と目くじら立てて掃除機をかけたり（自分でかけてくれるから良いとは思うが）してくれる。私は心の中で（私が子供たちを見ていてアナタは家事に集中できるからよ）とぼやいている。

このように健全な家庭だとはいいにくい我が家である。家事の工夫など誰でもやっていそうなことしかやっていないだろうから書かないでおく。我が家の救いは子供たちが二人とも病気などせず元気なこと、私が足がむくんで痛いよ、とか言うと夫がマッサージしてくれる優しい人であること、であろうか。

願わくば兄妹仲良く遊んでいてくれ、そしてそのうちお手伝いしてくれるようになるだろう、と期待し、大変なのは今だけ、今だけ、と暗示をかけつつ、私は持病のぜんそくの発作が起きないよう、精神と体力のバランスを保つことに専念している。こんな私に土木技術者女性の会の先輩方から良きアドバイスをいただければと思うところである。

私の家事の工夫（苦労）

中部地区　小畑敏子

１．はじめに

結婚して４年と半年が経ちますが、初めの頃は家事の仕方でよく夫と衝突しました。洗濯の仕方から掃除をするタイミング、部屋の片付けなど。この喧嘩も、今から振り返ると、お互いを理解するために必要なことだったのだと思います。

２．我が家の家事分担

我が家の家事の分担は、掃除は私（お風呂とトイレ掃除は夫）。洗濯物を干すのは夫。食事の仕度は、体調や機嫌が悪くない限り、早く帰ってきた方が仕度をします。部屋の整理は私。１週間単位で必要最小限の家事をしているような状況です。

３．夫のやる気を引出す方法

家事の役割分担がしっかりしているように見えますが、実際は、夫が率先して家事をしてくれるような状況ではなく、夫の家事は気分次第のところが大きいので、いかに夫のやる気を引き出すかが重要なポイントになります。

先輩から教えていただいたことなのですが、夫が何かしてくれた時には大いに褒めて、褒めまくるのが良いそうです。できるだけ実践してはいるものの、心に余裕が無い時は、「私がこんなに家事をやっているのに、あなたは何もしてくれないの」という雰囲気を出して、家事を無理強いすることがあります（これも一つの手でしょうか）。

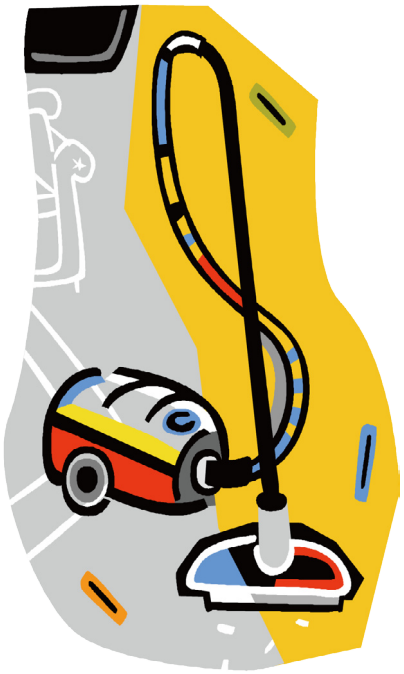
二つ目の方法としては、家事をすると良いことがあるようなイメージを作ることです。良いイメージとは、早く外に遊びに出かけられるようになるだとか、掃除は気持ちが良いだとか、家事をするとおいしくご飯がたべられるといったようなことですが、これも相手の気力次第のところが大きく、成功率は４０％程度です。

そして、マンガ「サザエさん」に次のようなお話があったように記憶しています。電球はお父さんしか替えられないのよね。という場面の後、お父さんの不在時に電球が切れ、サザエさんが取り替えている姿をカツオが見ていわく、「お姉さんも電球替えられるんだ～」。サザエさん、「お父さんしか出来ないことにしておいた方が便利でしょ」。夫に家事の役目を作るというのは良い案だと思うのですが、これはまだ私案段階です。

とどのつまりは、どの方法もあまり成功しておらず、やる気を引き出す秘策はいまだ見つかっていません。（秘策をお持ちの方、教えて下さい。）

４．あきらめと希望

仕事を持っている妻と結婚した時点で、夫は理想的な結婚生活は送れないと思いつつも、妻の帰りが遅い現実を許せないと思う時期があったように思います。高い望みは夫にはあきらめてもらい、お互いに快適な生活を送られるように折り合いを見つけていく作業がこれからも続いていくと思います。お互いの心の中に、助け合いながらやっていこうという気持ちを持ちつつ、私も楽しみながら家事をやっていきたいと思っています。

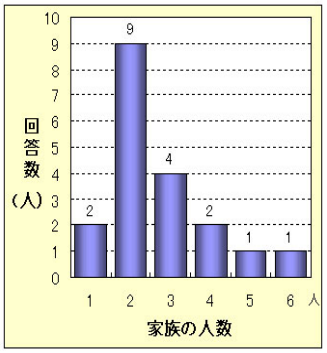


「私の家事の工夫」について聞いてみました

関東地区　田村裕美

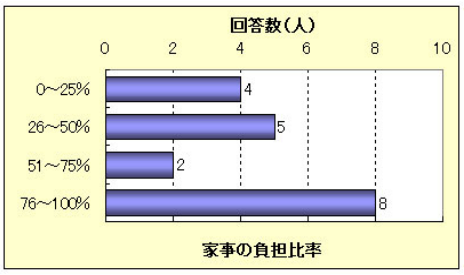
テーマである「私の家事の工夫」について、総会・懇親会に出席された方にアンケートをとってみました。
題して「家事に対する 10 の質問」
隣の赤裸々な家事の内容を覗いてみましょう。

先ずは基本データです。
①結婚していますか？
②お子さんはいますか？
　　未婚 7 人、既婚 14 人・・・計 21 人
　　子供有り　8 人



③家族を数えてみましょう。
　二人家族が 9 人と最も多く、約半数を占めていました。全体的に核家族化されているみたいですね。
　ペットを飼っている人は 3 人でした。これは思ったよりも少人数でした。

④あなたの家事の負担比率は？
　家族数と比率に相関関係はあるのか !? と分析してみましたが、まったくてんでばらばらでした。
　負担比率は個人の性格と才覚によって、違うようです。
　でも、皆さん技術者として多忙な日々の中、ちゃんと家事をこなしていて感心しました。



⑤家事で工夫している点、ズルしてる事などありましたら教えてください。
【やらない派】
・やらなくても生きていけるラインを決めてさぼる
・母に任せる
・「できない」と言う
【まとめて派】
・土日、手の空いている時にまとめて集中してやる
・ユニットバスなのでトイレ掃除は入浴時にしてしまう
【正当派】
・整理整頓をこまめにやる
・溜めない、その日の事はその日のうちに
・夫と得意分野を分担する
【具体的事例】
・朝食以外は外食、出前、宅配ピザ、お総菜等も利用
・野菜は宅配サービスを頼む
・お皿をあまり使わない

⑥嫌いな家事はありますか？

圧倒的に掃除が多く、次点はアイロン掛けでした。

食事の後片付け、洗濯物をたたむ、シーツの洗濯もありました。「全て」という人もいらっしゃいましたが・・・。

⑦あなたの１ヶ月分の家事につけるお値段は？

外注ではなく、自分がしている家事に値段を付けてもらいました。

1,000 円以下が 4 人

1 万円以上～ 5 万円以下が 8 人

10 万円以上が 4 人。

最高額は 20 万円でした。

（∞と書いた人を除きます）

ここで面白いのは家事の負担率が高いからといって、必ずしも高値を付けていないところです。

ちなみにハウスキーパーさんに頼むと、￥2,000/h ～で、スタッフの熟練度によって時間あたりの金額は変わってくるようです。

⑧家事をする上でこれはいい！というモノ（家電、道具）、 方法はありますか？

「全自動家事ロボット」という意見がありましたが、残念ながらまだありません！

ポイント	これはいい！	
3	乾燥機、電子レンジ、冷凍食品	
2	クイックルワイパー・ハンドワイパー、食器洗浄機	
1	炊事	フードプロセッサー、圧力鍋、洗剤不要のスポンジ、生ゴミ処理機 合羽橋で購入した本格的調理台、食器つけ置き洗い用洗剤
	家電	布団乾燥機、浴室乾燥機、全自動洗濯機、ミシン
	掃除・洗濯	石けん（体も食器も洗える）、コロコロ、捨てる前のボロ布、 汗をかく時期、夫の靴下は 30 分のつけ置き洗い

⑨試してみてイマイチだったモノ（家電、道具）、やり方はありましたか？

家事の種類	イマイチ！
炊事	食器洗浄機、ジューサー、小さい土鍋、袋を熱で密着させる道具、 レンジ時にラップ代わりに使うふた
掃除	スチーム式掃除機、コロコロ、簡易掃除機、クィックルワイパー
洗濯	ハンドスチーマーなどの通販グッズ、乾燥機（時間がかかりすぎる）

⑩こだわりの家事アイテムは？

家事の種類	こだわりのアイテム
炊事	キッチンばさみ、日本橋木屋の大根おろし、クリステルの鍋
掃除	サイクロン方式等の強力掃除機、純石けん（手荒れしない）、ガムテープ、古い歯ブラシ、 クイックルワイパー・ハンドワイパー、ぞうきん、重曹
洗濯	ノーアイロンで済む服

突然渡したアンケートに快く協力いただいたみなさま、ありがとうございます。

今回はその場で書いて提出をお願いしたのですが、家で部屋を見回しながら書いてもらっていたら違った名回答・珍回答が出たんじゃないかな～と思いました。

テーマとリンクしたアンケートをまとめると面白そうですね。

新入会員紹介

2005 年 4 月以降に入会された方をご紹介します

▽最終学歴　■専門

＜北海道地区＞

西村（にしむら）　和恵（かずえ）

○はじめまして。私は北海道で働いています。働いて 3 年目でやっと土木職らしい仕事に就けました。同じ職種の女性に出会えることが少ないので、この会に入って、仕事や技術に関すること、もしくは仕事と家庭の両立など色々なことを話していきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

■土木学会第Ⅱ部門　（2006 年 6 月 24 日入会）

＜関東地区＞

西内（にしうち）　和子（かずこ）　所属：パシフィックコンサルタンツ (株)

○職務内容：地域情報・道路情報提供にかかわる調査・計画・開発・運用支援等

勉強会等に参加して自己のモチベーションを高めるとともに、社外の人との交流を通じて意見交換をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

▽山梨大学大学院　■土木学会第Ⅳ部門　（2005 年 6 月 14 日入会）

岡田（おかだ）　阿礼（あれ）　所属：共和化工 (株)

○先日、10 月 1 日の勉強会に出席させて頂きました。いろいろな分野の方がいらっしゃって、とても刺激になります。好きなものはビールです。どうぞ宜しくお願いします。

▽東京都立大学工学研究科　■土木学会第Ⅶ部門　（2005 年 11 月 1 日入会）

黒岩（くろいわ）　三恵（みえ）　所属：成和リニューアルワークス (株)

○初めまして。「土木の仕事をする事」を目標としたのは、子供の頃からでした。身近で起きた地滑り災害を経験して、「どうしてこんなことが起きるのか？」と疑問に思ったのがきっかけでした。「超氷河期」と呼ばれた就職難の時にコンサルタント会社に入社し、小さい会社ながらも、「一人の技術者」として雇用していただいた経験は、自分にとって本当に大切に心に刻まれています。しかしながら不況の中、組織縮小ということで 5 の設計経験の後退社、派遣社員として現在の会社に勤務するようになり、正社員として認めていただき、やっと一級土木の資格を取得することが出来ました。しかしながら、前の勤務先とは違い、なかなか女性の技術者は認められにくいようです。こちらの会の存在を知って、他の女性技術者の方がどのような環境で働いていらっしゃるのか、いろいろな情報交換ができたら嬉しいと思い、入会を希望しました。

▽東洋大学土木工学科　■土木学会第Ⅳ部門　（2006 年 4 月 17 日入会）

今村（いまむら）　麻希（まき）　所属：東京電力 (株) 千葉支店

○皆様、始めまして。今村麻希と申します。H17 年度入社で、現在 2 年目です。最近の業務内容は、送電鉄塔基礎の劣化診断および、それを踏まえた基礎補強設計についてです。分からないことばかりで戸惑い気味ですが、コンクリートのひび割れや基礎設計手法の勉強をしたり、先輩方に質問したりしつつ頑張っています。この会では、土木分野を始めとする各分野でご活躍されている方々と出会えると聞いて、とても楽しみに思っています。よろしくお願いいたします。

▽宇都宮大学大学院工学研究科建設学専攻　■土木学会第Ⅳ部門　（2006 年 5 月 23 日入会）

岩上　木綿子　所属：（株）CTI サイエンスシステム

○㈱ CTI サイエンスシステムの岩上木綿子と申します。5 年ほど前に見学会に 2 度ほど参加させていただいたのですが、入会もせず、今年で入社 6 年目となりました。今回、岩本さんにお誘いいただいて、先日の総会に参加しました。遅ればせながら入会させていただきたいと思います　見学会が、いつもは見られない現場を見ることができ、とても面白かったと記憶しています。また見学会に参加できるのを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

▽東京電機大学　　■土木学会第Ⅱ部門　　（2006 年 6 月 24 日入会）

＜中部地区＞

山本　恵理子　所属：金沢工業大学大学院工学研究科

○はじめまして。金沢工業大学大学院修士 1 年の山本です。大学院では環境土木工学を専攻しております。研究室はコンクリート研究室に所属しております。修士 1 年生ということで、これから本格的に就職活動の時期となってきております。私は、なんらかの形で土木に携わった仕事をしていきたいと考えております。社会で活躍しておられる女性土木技術者の方のご意見を伺い、土木界で働く上で是非とも参考にさせていただければと思います。自己紹介文ということで、何を書いたらよいのか迷いました。乱筆乱文お許しください。

■土木学会第Ⅴ部門　　（2006 年 1 月 14 日入会）

＜関西地区＞

田畑　美紀　所属：山口大学大学院

○現在，大学院でコンクリートの勉強をしています。土木は，女性にとってなかなか厳しい業界と聞きます。しかし、私は将来できる限り土木という仕事に携わっていければと思っております。まだ知らない事も多いので、女性土木技術者として活躍される先輩方のお話や、状況など，勉強させていただきたいと思って入会しました．よろしくお願いします。

■土木学会第Ⅴ部門　　（2005 年 8 月 5 日入会）

◇◇◇　編集後記　◇◇◇

総会の直前に急遽決定された３年ぶりの「輪」内輪版。各地区の編集委員や短い期間で原稿を執筆してくださった会員の協力で、何とか発行にこぎつけました。テーマは「私の家事の工夫」。みなさんそれぞれの家事の工夫は参考になりましたか？

分担してくれる家族もいない一人暮らしの私には、「どうすれば手抜きができるか・・・」の一言につきるテーマです。やらなければならないことから優先に・・・、ということで、１に洗濯、２にごみ捨て、３～４が無くて５に掃除でしょうか？食事の支度にいたっては朝食以外はすべて外食という体たらく。冷蔵庫の中を占めているのは缶ビールです。（苦笑）

寄せられた原稿を読みつつ、こんなずぼらな生活から脱却しなければ・・・と思いつつも、もって生まれた性格はなかなかなおらない、まだまだしばらくはこんな生活が続くのでしょうね。

さて、次号は、「総会特集号」です。見学会、分科会などの総会の報告のほか、「お奨めのこの１冊」のテーマでお届けします。

「輪」第 44 号　編集担当
編集長　中村恭子
北海道地区　秋元ゆき子
関東地区　田村裕美
中部地区　小畑敏子
関西地区　小林千恵

「輪」への投稿は地区編集担当へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は、事務局まで、お願いします。
〒 107-8502　東京都港区赤坂６－５－３０
鹿島建設株式会社　土木設計本部　須田久美子
TEL 03-6229-6654
FAX 03-5561-2156
E-mail suda@kajima.com

輪（りん）　2006 年臨時号（第 44 号）

2006 年 7 月 20 日発行
土木技術者女性の会
The Society of Women Civil Engineers